

1. 資源評価調査

高木信夫・荒井裕崎・山口功・轍川亜希子

200海里水域内における重要漁業資源の漁獲可能量を推計する基礎資料を得ることを目的として、国の委託により平成12年度から全国規模で実施している。本年度は漁場別漁獲状況調査、標本船調査、生物情報収集および生物測定調査、沿岸資源動向調査、新規加入量調査、沖合海洋観測等調査(卵・稚仔調査)および資源評価情報システムの構築を実施した。なお、資源評価の対象データは平成26年(暦年)であるため、ここでは平成27年の結果を記載し、平成28年1~3月の結果は翌年度の報告書で記載する。

I. 漁場別漁獲状況調査

方法

平成27年1~12月の水揚げ量調査は、まき網漁業については長崎魚市・五島標本漁協・北松標本漁協・橋湾標本漁協、釣漁業については対馬標本漁協・壱岐標本漁協・西彼標本漁協、定置網漁業については対馬地区と五島地区、刺網漁業については北松標本漁協、底曳網漁業については有明海標本漁協、延縄漁業については対馬標本漁協、北松標本漁協、西彼標本漁協、有明海標本漁協において実施し、マアジ、マサバ、ゴマサバ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、ケンサキイカ、スルメイカ、ブリ、マダイ、ヒラメ、アマダイ類、トラフグ、ウマヅラハギ等の銘柄別水揚げ量を把握した。なお、表1には上記の主要なものを記載した。

結果

アジ・サバ・イワシ類 マアジは、五島・西彼地区で前年を上回ったが、北松・橋湾地区では前年を下回った。サバ類は、五島・北松・西彼地区では前年並みであった。マイワシは、北松・西彼地区では前年を上回った。カタクチイワシは、五島地区で前年を下回り、北松・橋湾で前年並み、西彼地区では前年を上回った。ウルメイワシは、北松地区では前年並み、五島地区では前年を下回り、西彼地区では前年を上回った。

イカ類 スルメイカは、壱岐地区では前年並みだったが、対馬地区では前年を上回った。また、ケンサキイカは、前

年を上回った。

ブリ 対馬地区の標本定置網では前年を下回り、五島地区の標本定置網では前年を上回った。

マダイ 壱岐地区では前年を下回り、西彼地区では前年を上回った。

表1 標本地区における漁獲統計

| 漁業種類 | 地区 | 魚種 | 27年(A) | 26年(B) | A/B | | |
|--------|--------|---------|--------|---------|-------|-------|-----|
| 五島 | | マイワシ | 1 | 0 | - | | |
| | | カタクチイワシ | 1 | 2 | 50 | | |
| | | ウルメイワシ | 40 | 156 | 26 | | |
| | | マアジ | 418 | 310 | 135 | | |
| | | サバ | 166 | 148 | 112 | | |
| | | 計 | 626 | 616 | 102 | | |
| | | 北松 | | マイワシ | 235 | 117 | 201 |
| | | | | カタクチイワシ | 7,198 | 7,763 | 93 |
| | | | | ウルメイワシ | 3,246 | 3,022 | 107 |
| | | | | マアジ | 575 | 2,865 | 20 |
| サバ | 2,843 | | | 2,909 | 98 | | |
| 計 | 14,097 | 16,676 | 85 | | | | |
| 中小型まき網 | 橋湾 | マイワシ | 0 | 0 | - | | |
| | | カタクチイワシ | 1,326 | 1,219 | 109 | | |
| | | ウルメイワシ | 0 | 0 | - | | |
| | | マアジ | 6 | 16 | 38 | | |
| | | サバ | 0 | 7 | 0 | | |
| 計 | 1,332 | 1,242 | 107 | | | | |
| 西彼 | | マイワシ | 440 | 263 | 167 | | |
| | | カタクチイワシ | 33 | 21 | 157 | | |
| | | ウルメイワシ | 733 | 383 | 191 | | |
| | | マアジ | 1,012 | 721 | 140 | | |
| | | サバ | 848 | 843 | 101 | | |
| 計 | 3,066 | 2,231 | 137 | | | | |
| 合計 | | マイワシ | 676 | 380 | 178 | | |
| | | カタクチイワシ | 5,087 | 4,849 | 105 | | |
| | | ウルメイワシ | 3,465 | 1,210 | 286 | | |
| | | マアジ | 1,865 | 2,229 | 84 | | |
| | | サバ | 3,833 | 3,429 | 112 | | |
| 計 | 14,926 | 12,097 | 123 | | | | |
| イカ釣 | 対馬 | スルメイカ | 315 | 242 | 130 | | |
| | | ケンサキイカ | 387 | 276 | 140 | | |
| 壱岐 | | スルメイカ | 1,142 | 1,157 | 99 | | |
| | | ケンサキイカ | 389 | 216 | 180 | | |
| 一本釣 | 壱岐 | マダイ | 25 | 43 | 57 | | |
| | 西彼 | マダイ | 3 | 2 | 213 | | |
| | 北松 | イサキ | 122 | 130 | 94 | | |
| 定置網 | 対馬 | ブリ | 25 | 41 | 61 | | |
| | 五島 | ブリ | 0 | 0 | 200 | | |

II. 生物情報収集および生物測定調査

方法

県内で水揚げされたアジ類、サバ類、ブリ、サワラ、マダイの尾叉長、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシの体長測定を月に1~5回実施した。

結果

アジ・サバ・イワシ類 4月に16-17cmモードであったマアジ1歳魚群は、8月には20-21cmモードとなった。またマアジ0歳魚が6月に9-10cmモードとして出現し、12月には15-16cmモードとなった。マサバ1歳魚群は6月に20-21cmモードであった。8月に12cmモードであったマイワシ1歳魚は11-12月に15cmモードとなった。また4月に17cmモードであったマイワシ2歳魚は10-11月に19cmモードとなった。

III. 沿岸資源動向調査

方法

沿岸性魚種として、本県はトビウオ類、キビナゴ、ガザミ、アカムツの4種を選定し、既存の漁業の把握、魚体測定および漁獲量に関する情報を収集した。

結果

主な漁業種類は、トビウオ類では定置網・船びき網、キビナゴでは刺網であった。ガザミは、有明海湾奥部では主に刺網・籠、湾中部ではすくい網・底びき網、橋湾では刺網・底びき網であった。アカムツでは延縄であった。

漁獲動向から見てトビウオ類の資源水準はそれぞれ、ホソトビウオ：中位水準で横ばい傾向、ツクシトビウオ：低位水準で横ばい傾向、ホソアオトビ：低位水準で減少傾向と判断された。また、長崎県のキビナゴの資源水準は、中位で横ばい傾向、ガザミの資源水準は、低位で資源動向は横ばい傾向と判断された。なお、アカムツ（対馬標本漁協）の漁獲量は、2012年以降増加傾向にある。

IV. 新規加入量調査

方法

マアジ 五島灘および橋湾周辺海域の合計19定点中、4月には18点、5月には12点において調査船鶴丸(99トン、956kW)によりニューストーンネット(口径130cm×75cm、側長380cm)を使用して、3ノット、10分間表層曳きにより仔稚魚を採集

した。

ブリ 4月および5月に五島灘および五島西沖において、調査指導船ゆめとび(19トン、580馬力2基)によりモジャコ掬い網を使用し、流れ藻に付いている仔稚魚を採集した。

結果

マアジ 採集された仔稚魚は、4月には合計90尾(仔魚：0尾、稚魚：18尾)が五島灘、橋湾に出現した。5月には出現がなかった。

ブリ 流れ藻は全般的にあまり多く見られなかった。4月には延べ23回操業し、合計910尾を採捕した。1網当たり採捕尾数は、40尾で前年・平年を上回った。採捕したモジャコは、平均82mmと平年に比べ小さかった。5月には延べ1回操業し、合計328尾採捕し1網当たり採捕尾数は、前年・平年を上回った。採捕したモジャコは、尾叉長平均62mmと平年に比べ大きかった。

(担当：高木・幟川)

V. 沖合海域海洋観測等調査(卵・稚仔調査)

方法

調査は、五島灘・五島西沖の合計8定点において、調査船鶴丸(99トン、956kW)で月1回実施した。なお、卵・稚仔の採集は、改良型ノルパックネット(口径45cm)の鉛直曳きにより行った。

結果

得られた標本のうち、カタクチイワシでは、卵は4-8月に出現が多く(定点当たりの最大出現数：45-106個)、その他の月の出現数は少なかった(定点当たりの最大出現数：0-14個)。稚仔魚は4-6月に出現が多かった(定点当たりの最大出現数：76-146個)。一方、マアジについては、周年において卵、稚仔魚ともに出現数は少なかった(0-2個)。

(担当：荒井)

VI. 資源評価情報システムの構築

方法

通信回線を利用した閉鎖型のネットワークにより、漁業情報サービスセンターへ、データ等を送信した。

結果

漁業情報サービスセンター、全国の水産研究所および水産試験場間でリアルタイムに情報交換を行なうと共に

、生物測定データ等の情報蓄積が行われた。

まとめ

平成27年度に開催された資源評価会議の結果、主要魚種の資源状況は、次のとおりと判断された。

マアジ対馬暖流系群：中位水準(横ばい)傾向)

マサバ対馬暖流系群：低位水準(横ばい)傾向)

ゴマサバ東シナ海系群：中位水準(横ばい)傾向)

マイワシ対馬暖流系群：中位水準(増加傾向)

カタクチイワシ対馬暖流系群：低位水準(減少傾向)

ウルメイワシ対馬暖流系群：中位水準(横ばい)傾向)

サワラ東シナ海系群：高位水準(増加傾向)

ムロアジ類(東シナ海)：低位水準(減少傾向)

タチウオ日梅・鯵ヶ瀬群：低位水準(横ばい)傾向)

アマダイ類(東シナ海)：低位水準(横ばい)傾向)

トラフグ日梅・鯵ヶ瀬群：低位水準(減少傾向)

ヒラメ日梅部・鯵ヶ瀬群：中位水準(減少傾向)

マダイ日梅部・鯵ヶ瀬群：低位水準(減少傾向)

ブリ：高位水準(増加傾向)

スルメイカ秋季発生群：高位水準(横ばい)傾向)

〃 冬季発生群：中位水準(減少傾向)

ケンサキイカ日梅・鯵ヶ瀬群：低位水準(減少傾向)

(担当 高木)